

## 阪本四方太の 記念標柱が建ちました

本町出身の阪本四方太没後90年を記念して、地元大谷地内に2つの記念標柱が建てられました。四方太（本名「よもた」、俳号は「しほうだ」高浜虚子が名付けたという。）は、地元では余り知られていませんが、明治6（1873）年、岩井郡大谷村（現・岩美町大谷）に生れ、ここで4歳になるまで過ごしました。

正岡子規の高弟として知られ、文豪夏目漱石とも深い交友がありました。

この度建てられた標柱は、四方太の生家の跡（日比野橋のたもと）の木柱（題字は地元前田彰氏）と岩美西小学校敷地の石柱（題字は榎本町長）です。

なお、岩美西小学校に建てられた石柱の除幕式が、6年生約30名が参加して行われました。

除幕式の後、子どもたちは、四方太の研究者西尾肇さんから四方太について詳しくお話を聞き、地元からすごい文学者が出ていることを教わりました。



岩美西小学校に建てられた石柱



四方太の生家の跡

### 四方太略年譜

明治6（1873）年2月4日

岩井郡大谷村生れ。10年、鳥取に移る。醇風小学校、県立鳥取中学校（現、鳥取西高校）に進む。

明治27（1894）年

第二高等学校（仙台）で高浜虚子と知り合い、俳句を始める。29年、東京帝国大学入学。子規に師事する。

明治31（1898）年

夏休みで帰省する四方太に俳句の指導を受けようと鳥取市に「卯の花会」が誕生。田中寒楼も参加。

明治33（1900）年

東京帝国大学付属図書館司書に就く。「ホトトギス」の俳句選者を務めるなど、俳句の改革と写生文の普及に尽力。

明治40（1907）年

「ホトトギス」に「夢の如し」を連載。42年に出版。漱石に激賞された。大正6（1917）年5月16日病没。44歳。

## 大羽尾

### 因幡の菖蒲綱引き

6月10日（日）、大羽尾地区で国指定重要無形民俗文化財の「因幡の菖蒲綱引き」が行われました。



同地区子ども会と大羽尾菖蒲綱保存会が編み上げた綱を子どもたちが大羽尾神社から海岸へ運び、綱引きの始まりです。

同地区の子どもをはじめ、岩美北小児童など地区外の子どもたち約40名に大人も加勢し、お宮さん側と観音さん側に分かれて元気いっぱい綱を引いていました。

綱引きの後は、菖蒲綱の土俵で菖蒲相撲が行われ、思わぬ大技（？）に見守る観衆から大きな歓声が上がっていました。

